



J A 津軽みらい
佐藤佳克 営農購買担当 常務

J A 青森中央会
阿保直延 会長

りんご認証GAP研究会
葛西厚平 さん

特A米プレミアム研究会
工藤憲男 さん

全農あおもり
桑田徳文 副本部長

米、りんご グローバルGAP取得

当J Aは、米とりんごでグローバルGAP（農業生産工程管理）の団体認証を取得した。団体認証で2品目同時に取得は当J Aが初となる。3月1日、特A米プレミアム研究会の工藤憲男さんとりんご認証GAP研究会の葛西厚平さんがJ A青森中央会と本店へ訪れ、認証取得を報告した。

工藤さんは「J A職員の協力もあり、グローバルGAPを取得することができた。とても感謝している。GAP取得に取り組んだことで、安全安心な農業とは何かを改めて実感し、農作業がしやすい環境を作れたことが何よりのメリットになった」、葛西さんは「GAP取得に取り組んだことで安全管理、衛生面の見直しや改善をすることができた。今回の取得が産地全体のイメージアップなどにつながってほしい」と話した。

グローバルGAP取得に取り組んだ営農部営農課の三浦正幹副調査役は「生産者がグローバルGAP認証に向けて、農場の状況や不足しているものの把握、資料の作成などを徹底して行ったことで団体認証取得を受けることができた。認証を受けたことで、海外からのりんごの需要増加と『青天の霹靂』のブランド確立や生産者の所得向上を期待したい」と話した。

取り組みは平成30年4月から始まり、米は当J Aの特A米プレミアム研究会の会員3人（認証面積は596.3㌥）、りんごは生産者5人（認証面積は1255㌥）で取得に向けて取り組んだ。県のブランド米「青天の霹靂」のブランド力強化とりんごの海外の需要増加による生産者の所得向上を狙う。

グローバルGAPへの取り組みは、米は「青天の霹靂」のブランド力の強化と維持、りんごは海外輸出時に必要となる国があることや輸出先からの強い要望があったことから始まった。当J Aでは、グローバルGAP取得の説明会などを開き、必須項目の研修会の開催や規程に合わせた農場の管理、リスク評価の把握、記録簿の作成などを行うよう指導した。

今後、生産者にグローバルGAPへの理解を深めて、認証面積の拡大とJ Aの指導体制の強化を図る。

